

東工大 クロニクル



Tokyo Tech Chronicle

Contents

- 1 東京工業大学 大学改革
—日本の東工大から世界の Tokyo Tech へ—
- 5 新役員・部局長からの就任の挨拶
 - 理事・副学長（総務・財務担当）・事務局長
芝田 政之
 - 監事
三矢 麻理子
 - 理学院長
岡田 哲男
 - 工学院院长
岩附 信行
 - 物質理工学院長
和田 雄二
 - 情報理工学院長
渡辺 治
 - 生命理工学院長
三原 久和
 - 環境・社会理工学院長
岸本 喜久雄
 - リベラルアーツ研究教育院長
上田 紀行
 - 科学技術創成研究院長
益 一哉
- 9 平成 28 年度 東京工業大学入学式 举行
- 11 島尻内閣府特命担当大臣（科学技術政策）が東工大を視察
- 13 大隅良典名誉教授が第 45 回ローゼンスティール賞と第 15 回ワイリー賞を受賞
- 14 木賀大介准教授が第 12 回日本学術振興会賞を受賞
- 15 第 1 回「末松賞」授賞式を実施
- 16 「より優れた教育の推進に」東工大教育賞授与式を実施
- 18 平成 27 年度「東工大の星」支援 STAR 採択者決定
- 20 工大祭が「学園祭グランプリ 2015」の MVP を受賞
- 22 東工大フットサル部 FFC カレッジフットサルリーグ 1 部昇格
- 23 平成 27 年度手島精一記念研究賞授与式
- 26 開催報告 “LAUNCH UP!”
- 31 2015 年度後期の附属図書館企画展示 開催報告



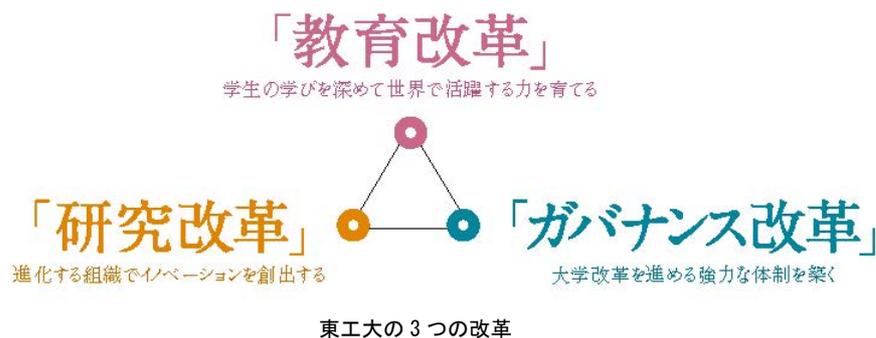
No. 511
May 2016

東京工業大学 大学改革

ー日本の東工大から世界の Tokyo Tech へー

広報センター

東京工業大学は、三島学長の強いリーダーシップの下、2030年までに「世界トップ10に入るリサーチユニバーシティ」を目指して2016年4月から開始した改革についてご紹介します。



1. 学生の学びを深めて世界で活躍する力を育てる「教育改革」

①日本初の「学院」

日本の大学では初となる学部と大学院が一体となって教育を行う「学院」を設置しました。学院で教育する学士課程の教育プログラム（系）と大学院課程の教育プログラム（コース）のカリキュラム・分野をできるだけ大きくりにしています。

また、学士課程と大学院課程の教育プログラムを連続的に設計しています。これにより、学生は学士課程入学時から大学院の出口を見通すことができ、自らの興味・関心に基づく多様な選択・挑戦が可能になりました。

②リベラルアーツ研究教育院の誕生

これまで学部4年生までだった教養教育のカリキュラムが博士後期課程まで延長され、「大きな志を育む」教養教育がスタートしました。学士課程入学直後の東工大立志プロジェクトを皮切りに、小グループでのディスカッション、プロジェクト発表などを通じて、仲間と刺激を与え合いながら、高い問題意識のもとに、優れたコミュニケーション能力を持って世界へと発信し、実現していく力をこれまで以上に養っていきます。また、人文科学、社会科学、外国語、ウェルネス等の広範な分野に触れることで、多様性に満ちた現代社会の中での学生自身の立ち位置を明確化し、学士課程、修士課程及び博士後期課程の専門教育と教養教育とをダイナミックに組み合わせて、将来社会を牽引する、創造性溢れた魅力ある人材の育成を目指します。

③学生が主体的に学べる国際通用性のあるカリキュラム

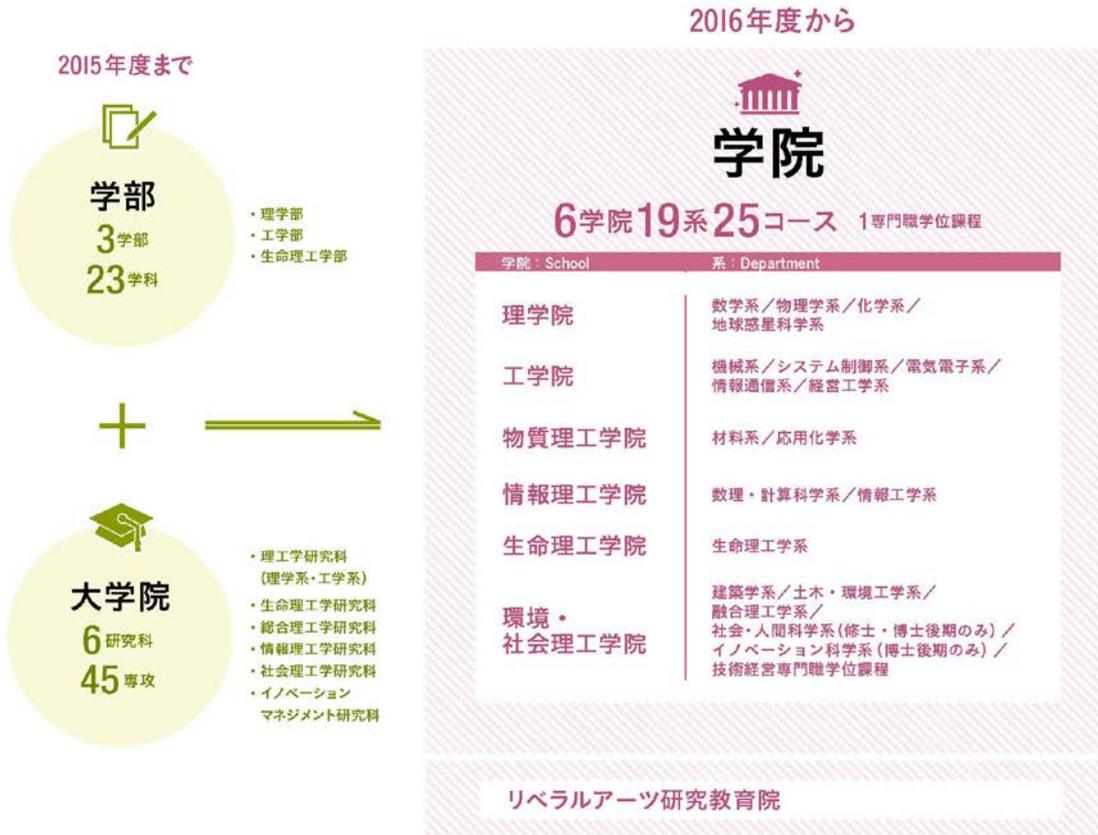
国際的に通用性のあるカリキュラムを学生が自主的に学修するように促すため、シラバスの充実と日本語と英語による公開、科目をナンバリングしてレベルと順序を明示、留学・インターンシップ等を経験しやすいように科目履修が柔軟にできるクォーター制の導入、アクティブラーニングや英語による授業、副専門学修、教養科目、キャリア科目の充実などを実施しました。

④教育革新センター（CITL）

教育革新センターは2015年4月に設立され、東京工業大学の教育手法の革新、継続的な教育支援及び教育の質向上に資する活動により教育改革を推進しています。授業設計や評価基準策定を含めた教育のPDCA確立、教職員への各種教育研修などに取り組んでいます。また、オンライン教育開発室（OEDO）では、MOOC^{*1}やSPOC^{*2}コンテンツの開発などを学生と共に行っています。

※1 MOOC: Massive Open Online Course の略称。大規模公開オンライン講座

※2 SPOC: Small Private Online Course の略称。象者や提供先などが限られている外部非公開でのオンライン講義



教育改革前後の教育体制

教育改革の詳細については、以下の東工大全学サイトをご覧ください。

- ・東工大教育の特徴（教育改革後） <http://www.titech.ac.jp/education/features/>
- ・学院・系及びリベラルアーツ研究教育院 <http://educ.titech.ac.jp/>
- ・東工大教育改革の歩み <http://www.titech.ac.jp/education/reform/index.html>
- ・教育改革及び教務・学修関係事項の資料 http://www.eduplan.titech.ac.jp/w/meeting_data/edu_reform/

2. 進化する組織でイノベーションを創出する「研究改革」

① 科学技術創成研究院の発足

柔軟な運営体制で革新的科学技術と新規領域・融合領域を創出するため、4 研究所、2 研究センター、10 研究ユニットを有する科学技術創成研究院が発足しました。

現行の研究に関わる組織を再編成して新たなミッションを担う研究所、研究センターとともに、最先端の研究を小規模のチームで機動的に推進し、大隅良典栄誉教授ら卓越したリーダーが“尖った”研究を大きく育てるために、研究ユニットが設置されました。

複雑化する社会の要請、異分野にまたがる研究課題の増大に対応するため、より柔軟な研究体制の構築が求められています。研究者の配置や連携体制構築をより機動的に行い、異なる専門の研究者もチームを組んで研究できる仕組みを導入しています。

② 「世界の研究ハブ」を目指す

科学技術創成研究院は、地球生命研究所 (ELSI) を始めとする研究拠点組織のノウハウを活用しつつ、WRHI を核として海外の卓越した研究機関や企業とも積極的に連携し、第一線で活躍する研究者の集う「世界のハブ」を目指して研究を展開し、成果を発信していきます。



科学技術創成研究院と学院等との関係

研究改革の詳細については、以下の東工大全学サイトをご覧ください。

- 東工大ニュース「研究力のさらなる強化に向けて「科学技術創成研究院」設置を記者発表」
<http://www.titech.ac.jp/news/2016/033784.html>
- 科学技術創成研究院 <http://www.iir.titech.ac.jp/>

3. 大学改革を進める強力な体制を築く「ガバナンス改革」

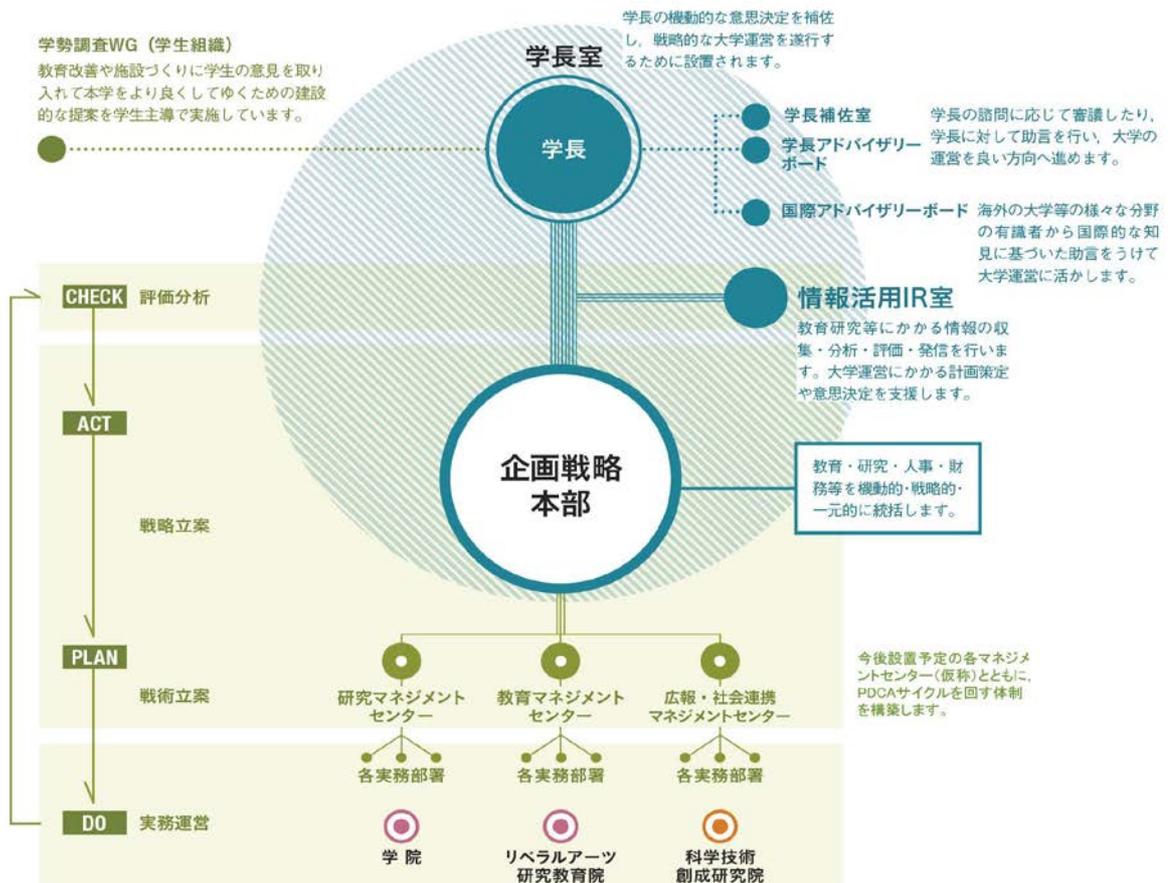
①学長のリーダーシップが最大限に活かせる体制へ

学長のリーダーシップを最大限に活かすために、人事・財務・インフラの各方面での体制を刷新しました。学長指名による学院長等の決定、全学の人事委員会の承認による教員選考などにより、戦略的な人材の集中的投入が可能となります。また、学長裁量とする経費・スペースの拡大により、機動的な資源投入を行います。学長の下に、大学全体が一丸となって対応するための体制に組織を進化させ、大学改革を推進していきます。

②企画戦略本部を中心とした PDCA サイクル

学内の企画立案組織の改革に合わせて、ガバナンスを担う「企画戦略本部」を2016年4月に設置しました。教育・研究・人事・財務等を機動的・戦略的・一元的に統括するものとして、学長の機動的な意思決定を補佐して大学運営を行うための「学長室」の中に置いています。また、学内外の教育研究等にかかる情報の収集・分析を行う「情報活用IR室」を設置しました。情報提供のほか大学運営にかかる計画策定や意思決定などを支援し、企画戦略本部を中心としたPDCAの中で戦略的な大学運営の実現に寄与します。

学長のもと戦略的運営を行う体制



戦略的な大学運営の実現

その他、組織等の移行については、以下の東工大全学サイトをご覧ください。

- ・教育体制の移行

http://www.titech.ac.jp/about/organization/transition_of_the_education_system.html

- ・2016年4月に実施した教育研究組織の改革について

<http://www.titech.ac.jp/about/organization/index.html>

※「2015年度以前の組織等について (PDF)」をご参照ください。

新役員・部局長からの就任の挨拶

就任挨拶



理事・副学長（総務・財務担当）・事務局長
芝田 政之

4月1日付で着任しました。実践は難しいのですが、仕事を進める上で2点大切にしたいと思っています。

1点目は、私心を持たないことです。私利私欲のために仕事をしないのは国立大学法人の役員として当然のことですが、人の好き嫌いや仕事の好き嫌いといった広い意味での私心を持たないように努めます。

2点目は、できるだけ次元を高めて問題の解決を図るということです。具体的に言えば、例えばAさんは「Xが良い」と主張し、Bさんは「Yが良い」と主張し対立したとしましょう。そんな時、次元を上げてZ軸から問題を眺めて解を探すように努めます。

今日の国立大学には、イノベーションの創出とグローバル社会に対応できる人材の養成が期待されています。しかし、そのことは研究者の探求心に基づく地道で長期的にしか成果の出ない研究をおろそかにしていいということではないと考えます。国立大学は、オープンイノベーションを推進すると同時に、幅広い分野でじっくり研究に専念できる環境を維持していく必要があります。また、グローバル社会に対応できる人材養成のためには、専門分野の教育に加えて、外国語を含むコミュニケーション能力、自国文化や異文化理解の能力、広い視野で課題を発見し解を見つける能力を涵養する教育環境を整備しなければなりません。こうした考え方は、現在東京工業大学が進めようとしている教育研究改革の理念と合致していると理解しています。私の職掌の立場からこれらの環境整備に貢献できるように努めます。

最後に事務局長としては、教職協働の実現のために、事務職員が教員の良きパートナーとなれるように人材養成に努めてまいります。事務職員が自信と誇りをもって積極的に企画立案を行い、必要な時にはコンプライアンスのための砦となるくらいの志を持てるような環境の醸成に努めてまいります。

皆様方のご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。

就任挨拶



監事
三矢 麻理子

この度、非常勤の監事に就任致しました三矢です。

私は現在、公認会計士として、財務諸表、税務申告書の作成やコンサルティング、会計監査や上場会社の監査役の仕事をしております。

東京工業大学は、父と母方の祖父の出身校と聞いておりましたので、そのような大学の監事のお話を頂いた時、何かご縁のようなものを感じずにはいられませんでした。

東京工業大学は大きく変わろうとしています。そのような時期に皆様と一緒に働けることを嬉しく思います。至らないところも多々あるかとは思いますが、監事の仕事を通じて本学に貢献したいと思っています。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

学院長、研究教育院長及び研究院長メッセージ

理学院長
岡田 哲男

理学は、自由な発想と知的好奇心に基づき、自然界に潜む法則性を解き明かす学問です。ガリレイ、ニュートン、キュリー夫人、アインシュタインら先人達は、自らの好奇心に基づいて自然を理解しようとしてきました。長年に渡る人類の知的活動の積み重ねにもかかわらず、我々は自然界のほとんどを理解できていないかもしれません。自然界の本質の解明は知的好奇心を満たすだけでなく、社会の発展にも貢献することを歴史は示しています。このような共通の目標に向かって、人類の智を継承・発展させる、それが理学です。

工学院長
岩附 信行

工学は、人類を幸せにするための枠組である「文明」に貢献する学問であり、人の生活を豊かで快適なものとする技術を希求します。工学院では、その基盤である学理と応用である「ものづくり」までを幅広く学び、最先端の研究活動や国際交流活動を体験して、創造性豊かな専門家として世界に雄飛します。豊かな感性と活力あふれる若者とともに未来を開拓できることを期待します。

物質理工学院長
和田 雄二

材料系と応用化学系という2つの系から構成される物質理工学院は、物質の構造・物性の理解に基づいた機能創成を行い、またダイナミックな物質の化学変化を操る原理・手法を創出する研究者・技術者を育ててゆくことを目指しています。ここは、世界トップレベルの研究者が相互に交流・協力し、あらゆる物質を対象とし、環境・エネルギー・資源・安全・健康の課題解決というターゲットに向かって若人を育成する揺り籠であり、夢に燃える彼らと共働する道場です。地球の生き物たちと共生する物質文明を創造する学びと研究に触れてみませんか。



情報理工学院長
渡辺 治

いま、情報技術が大きな変革期に来ています。それは単に私たちのまわりに情報機器が大量に出てきたからだけではありません。高度な数学的手法により情報の本質がわかりはじめ、それを活用する技術が大幅に進展し始めたからです。その最先端を私たちと一緒に開拓していきませんか？情報化社会の可能性はまだまだ広がっていきます。



生命理工学院長
三原 久和

生命理工学院では、理工学分野の基礎的知識や、ライフサイエンスとテクノロジーに関連する科学的知識と技術を修得し、生命理工学に関連した科学技術の発展に資する課題解決力と倫理観を養う教育を実施します。理学と工学分野の研究のみならず、医学、薬学や農学の幅広い分野での最先端研究を展開しています。生命理工学院の多様で高度な教育研究を通じて、グローバル社会のリーダーとなる理工人の養成を目指しています。



環境・社会理工学院長
岸本 喜久雄

人類と社会の持続的な発展のためには、理工学に加えて人文社会科学の知識を広く学び、それらを応用・展開するとともに、新たな学術・技術を創生していくことが求められています。そのため、環境・社会理工学院は、建築学系、土木・環境工学系、融合理工学系に加えて、大学院に社会・人間科学系、イノベーション科学系ならびに技術経営専門職学位課程を設置して、文理共創型の学院としてグローバル化社会への貢献を目指しています。



リベラルアーツ研究教育院長
上田 紀行

東工大はこれまでも、学部4年まで専門教育に並行して文系教養科目を履修する「くさび形教育」を行うなど、教養教育に重きを置く大学として知られてきました。その伝統を活かしつつ、2016年4月に格段にパワーアップした画期的なリベラルアーツ教育を開始しました。

リベラルアーツ教育のカリキュラムは博士後期課程まで延長され、至るところに設けられた少人数でのディスカッションやプロジェクトでの仲間との刺激的な交流の中で、世界を知り、自分自身の可能性を探究しながら、自ら問いを発し、感じ、考え、発言し、行動する力をこれまで以上にダイナミックに養っていきます。学士課程入学直後の「東工大立志プロジェクト」を皮切りに、充実した科目群を学修した後、同じ仲間達が再会して学士課程3年目の後期の「教養卒論」にチャレンジします。それらのクラスには修士課程の「リーダーシップ道場」から「ピアレビュー実践」「リーダーシップアドバンス」へと進んだ学生がアドバイザーとして参加し、学年を超えた交流も生まれます。

これまで教養科目は「できるだけ楽をして単位が取れる科目を選ぶ」といった扱いを受けがちでした。しかしそんな教養しか身につけていない人間が世界の真のリーダーとなり、より良き社会を創造していくことができるでしょうか？東工大のリベラルアーツ教育は違います。それはひとりひとりが自分の学びのストーリーを発見しながら、自らの目標に向かって、そして新しい世界の創造に向かって歩いていくという、「志」へ向かってのエネルギーに満ちた道程なのです。

東工大のリベラルアーツ教育は「華のある」教養教育を目指します。「華のある」とは、人をひきつける、活力がある、明るく楽しいといったイメージです。教室でも、カフェテリアでも、芝生の上でも、キャンパスの至るところで、地球的課題を、人間性の深みを語り合い、自分と社会の新たな可能性に気づくような場を生みだしていきましょう。自分の将来を切りひらき、大きな社会的貢献を成し遂げるために、ぜひリベラルアーツ教育の場を活かしてください。

21世紀社会を牽引する真のリーダー育成を目指して、東工大のリベラルアーツ教育のチャレンジが続きます。



科学技術創成研究院長
益 一哉

科学技術創成研究院は、新たな研究領域の創出、人類社会の問題解決、及び将来の産業基盤の育成を使命として、2016年度に設立されました。すずかけ台・大岡山両キャンパスにまたがる複数の研究所、研究センター及び研究ユニットから構成され、全体で150名を超える研究者を擁しています。研究所、センター、ユニット間の有機的連携により、互いに関連する研究課題に全体で取り組むだけにとどまらず、新たなイノベーションを創成する斬新な研究成果を目指します。

平成 28 年度 東京工業大学入学式 挙行

4月4日、大岡山キャンパスにて平成28年度入学式が執り行われました。今年度の入学者数は、学士課程1,135名、大学院課程1,799名（修士課程1,545名（専門職学位課程を含む）博士後期課程254名）の計2,934名です。



平成 28 年度 東京工業大学入学式

午前の学士課程入学式、午後の大学院入学式の双方とも、アカデミックガウンを身にまとった学長、来賓の方々、本学理事・役員、各学院長、リベラルアーツ研究教育院長、科学技術創成研究院長の教授陣の入場で始まりました。末永隆一氏の指揮のもと本学管弦楽団が行進曲を演奏する中、厳かな入場となりました。開式のアナウンス後、本学混声合唱団コールクライネスとともに列席者一同で大学歌を斉唱しました。

東工大は、世界で活躍できる人材育成と世界をリードする研究を推進するために、今年度から様々な改革を進めています。今後の教育、研究のグローバル化を見据え、学長の式辞は、英語で行われました。

三島学長は学士課程新入生に向けて、「将来、科学・技術の力で世界に貢献するため、自ら進んで学び、鍛錬する"志"を育てる教育を行うため教育改革を行いました。皆さんには、将来の自分の姿を描き、その目標のために自分の力をどこまで伸ばすことができるか、限界を作らず、挑戦する志を持ってほしい」と話しました。



学長式辞（三島良直学長）



新入生総代答辞（大学院）

大学院課程新入生へは、「自分の将来を見据え、積極的に様々な能力を身につけるといふ熱意を持ち、より高い目標へ挑戦し続けてほしい。国際感覚を身につけることを常に意識し、社会人になる暁には世界を舞台に活躍することを期待しています」と語りました。

その後来賓の方々を代表して、本学同窓会「一般社団法人蔵前工業会」理事長・東日本旅客鉄道株式会社監査役の石田義雄氏、マツダ株式会社 代表取締役会長の金井誠太氏より祝辞をいただきました。続いて来賓紹介、本学役員・部局長紹介が行われ、その後、新入生総代よりこれから始まる東工大生活での抱負が力強く宣誓されました。

学士課程入学式に続いて、同会場で入学記念コンサートが開催されました。これは毎年、新入生の門出を祝う意味をこめて、プロのピアニストにお願いして演奏していただく催しです。今年のピアニストは田中翔平さんです。田中さんは、東京藝術大学音楽学部器楽科を経て、同大学院修士課程を修了し、修了時に大学院アカンサス音楽賞及び藝大クラヴィーア賞を受賞されています。



新入生総代答辞（学士課程）



入学記念コンサート

大岡山キャンパスは、満開の桜とともに新入生やそのご家族の晴れやかな笑顔であふれました。新入生のみなさま、入学おめでとうございます。



東工大本館前ウッドデッキ

(全学サイト東工大ニュース投稿者・掲載日：広報センター 2016年4月14日)

島尻内閣府特命担当大臣(科学技術政策)が東工大を視察

4月12日、島尻安伊子内閣府特命担当大臣(科学技術政策)が、上山隆大総合科学技術・イノベーション会議有識者議員、中川健朗内閣府大臣官房審議官(科学技術・イノベーション担当)らとともに、東京工業大学(以下、東工大)を視察しました。

島尻大臣は、今年4月から学院としてスタートした東工大の新しい教育組織や、研究組織の改革により発足した科学技術創成研究院などについて、三島良直学長から説明を受け、その後、大学改革の課題についての意見交換を行いました。

島尻大臣からは、「東工大は、大学改革に果敢に挑戦して非常に素晴らしい大学と聞いています。また、組織を変える学長の苦労を垣間見ました。改革の先行例として評価しています」とのコメントと、理工系総合大学である東工大には大きな期待をしている旨の激励の言葉をいただきました。

引き続き、池上彰特命教授と「Society 5.0」*1について一般の人にわかりやすく説明することの重要性に関する活発な意見交換が行われました。



廣瀬所長より説明を受ける島尻大臣



意見交換の様子

最後に、東工大に設置されている WPI^{※2}である地球生命研究所（ELSI）にて、廣瀬敬所長による研究の概要説明を受けた後、超高圧実験室を視察し、今回の行程を終えました。

※1 Society5.0: 今年1月に閣議決定された第5期科学技術基本計画に基づき、内閣府、及び総合科学技術・イノベーション会議が推進する未来の産業創造と社会変革に関する取り組みの1つ。「超スマート社会」を未来の姿として共有し、その実現に向けた一連の取り組みを指す。

※2 WPI: 2007年度に文部科学省が開始した事業「世界トップレベル研究拠点プログラム（World Premier International Research Center Initiative）」の略称。

（全学サイト東工大ニュース投稿者・掲載日：広報センター 2016年5月19日）

大隅良典栄誉教授が第 45 回ローゼンスティール賞と第 15 回ワイリー賞を受賞

フロンティア研究機構(受賞当時。現・科学技術創成研究院) 大隅良典栄誉教授が、医学分野での重要な功績に対して贈られるローゼンスティール賞とワイリー賞の受賞者に選ばれました。



大隅良典栄誉教授

今回、大隅栄誉教授が第 45 回目の受賞者となるローゼンスティール賞は、米国ブランダイス大学ローゼンスティール基礎医科学研究センターによって、1971 年より毎年、基礎医学の発展における顕著な功績に対して授与されています。

一方、ワイリー賞は、2002 年から毎年、米国学術出版社ワイリー社が出資するワイリー財団より、バイオメディカル分野で顕著な業績を上げた研究者に贈られるもので、同教授はその第 15 回目の受賞者に選ばれました。これまでの受賞者のうち 5 名がその後にノーベル賞を受賞しています。

両賞とも、大隅栄誉教授のオートファジーの研究功績を高く評価し授与されるものです。オートファジーとは細胞が自分自身のタンパク質を分解する仕組みのことで、同教授は、細胞や細胞組織の維持と修復に不可欠であることを解明し、生物医学分野の発展に大きく寄与しました。

大隅良典栄誉教授コメント

この度、ブランダイス大学から第 45 回ローゼンスティール賞を、ワイリー財団から第 15 回ワイリー賞を受けることになりました。4 月 6 日ボストンで行われるローゼンスティール賞受賞式の後、ニューヨークに移動し、4 月 8 日のワイリー賞受賞式に出席します。ワイリー賞受賞式の会場となるロックフェラー大学は、私のポスドク時代の 3 年間の留学先であり、現在に至るまで研究材料としている酵母の研究を始めた場所なので感慨深いものがあります。

(全学サイト東工大ニュース投稿者・掲載日：広報センター 2016 年 3 月 10 日)

※現在の所属については広報センターにて追記

木賀大介准教授が第12回日本学術振興会賞を受賞

大学院総合理工学研究科知能システム科学専攻（受賞当時。現・生命理工学院）の木賀大介准教授（受賞当時。現・特任教授）が、第12回日本学術振興会賞を受賞しました。



授賞式に出席した木賀准教授（左）とお母様

日本学術振興会賞とは

同賞は、独立行政法人日本学術振興会が、優れた研究を進めている若手研究者を見出し、早い段階から顕彰してその研究意欲を高め、独創的、先駆的な研究を支援することにより、我が国の学術研究の水準を世界のトップレベルにおいて発展させることを目的に2004年に創設されたものです。

受賞対象者は、人文・社会科学及び自然科学の全分野において、45歳未満で博士又は博士と同等以上の学術研究能力を有する者のうち、論文等の研究業績により学術上特に優れた成果をあげている研究者となっています。受賞者には賞状、賞牌及び副賞として研究奨励金110万円が贈呈されます。記念授賞式は2月24日に日本学士院にて開催されました。

受賞理由

合成生物学による人工生命システムの構築

生命システムは構成単位の組み合わせによって、様々な特性を持ちます。構成単位の組み合わせの場合の数が非常に大きいことが天然の生物の多様性の根源であり、人類が生物を改良して人工的に活用できることの担保でもあります。

木賀准教授は、生化学のバックグラウンドをもとに、物理学、情報科学やシステム科学の知見を活用し、試験管内や細胞内に生体分子を組み合わせた人工生命システムを具現化してきました。また、20種類のアミノ酸が鎖状に連なって構成されるタンパク質に対し19種類や21種類のアミノ酸を使用するタンパク質の合成系や、試験管内での生体分子による論理演算系、生きた細胞間の相互作用によって多様化を維持する人工遺伝子回路、などの構築を行いました。

これらの成果は国際的にも高い評価を受けており、木賀准教授は合成生物学という新しい分野において日本のキーパーソンとして認識され、人工生命や生命の起源に関する研究者の一人として、今後も世界をリードする幅広い活躍が期待されています。

木賀准教授のコメント

遺伝子工学の発展版として様々な応用が期待されている合成生物学の本質は、wet と称される生物実験と、dry と称されるシステム科学・情報科学を適切に融合することにあります。このため、私の研究の根源は生命の起源に関する理学的な問いから発していますが、研究の実践のためには、様々な科学を融合することが必要であり、東工大着任前の私一人の力では何も成すことはできませんでした。現在所属する、知能システム科学専攻（受賞当時。現・情報理工学院）の山村雅幸教授をはじめとする皆様や、融合組織としての情報生命博士教育院、地球生命研究所、およびこれらで育ててきた学生と共に一連の研究を楽しんでこられたことを光栄に思い、恩師や共同研究者、各種研究資金の提供元皆様へと合わせ、深く感謝します。今後も、さらなる学際融合研究・教育に精進します。また、私事にて恐縮ですが、私の基盤を形づくった父、父亡き後私たち兄弟を育て上げてくれた母、経済面のサポートを下さった学術振興会をはじめとする各種団体や出身高校と大学に、そして現在の生活を豊かにしてくれている家族に深く感謝します。

（全学サイト東工大ニュース投稿者・掲載日：大学院総合理工学研究科知能システム科学専攻 准教授 木賀大介 2016年3月3日）

※現在の所属については広報センターにて追記

第1回「末松賞」授賞式を実施

2月4日、第1回末松賞の授賞式が行われました。

末松賞は、末松安晴栄誉教授の「若い研究者たちが様々な分野で未開拓の科学・技術システムの発展を予知して研究し、隠れた未来の姿を引き寄せて定着させる活動が澎湃（ほうはい）としてわき出て欲しい」との思いから、本学に対し多額の寄附をいただいたことにより創設され、今回が初めての授賞式となりました。

末松栄誉教授は、光通信工学の分野において、光ファイバーの伝送損失が最小となる波長の光を発生し、かつ、高速に変調しても波長が安定した動的単一モードレーザーを実現しました。現在のインターネット社会を支える大容量長距離光ファイバー通信技術の確立に大きく寄与するなどの優れた業績を挙げ、本領域の発展に多大な貢献をしました。その功績が評価され平成27年度の文化勲章を受章しています。

初回となる本年度は、大学院理工学研究科 物性物理学専攻（受賞当時。現・理学院）井上遼太郎助教、大学院生命理工学研究科 分子生命科学専攻（受賞当時。現・生命理工学院）金森功吏助教の2名が選考されました。

授賞式には末松栄誉教授も出席し、三島良直学長からの挨拶の後、賞状の授与が行われました。次いで末松先生からも挨拶があり、その後、受賞者2名が受賞に対する感謝と今後の意気込みを述べました。

授賞式に続き、記念撮影、懇談会が行われました。井上助教と金森助教から現在行っている研究について



（後列左から）小野功副学長、三島良直学長、安藤真理事・副学長
（前列左から）金森功吏助教、末松安晴栄誉教授、井上遼太郎助教

で説明すると、それに対して末松栄誉教授と三島学長から自分たちの若手時代のことを交えて話がされ、大変盛り上がった懇談会となりました。



懇談会の様子

(全学サイト東工大ニュース投稿者・掲載日：総務部広報・社会連携課基金室 2016年3月7日)

※現在の所属については広報センターにて追記

「より優れた教育の推進に」東工大教育賞授与式を実施

3月9日に、大岡山キャンパス本館理学系第2会議室において、平成26年度東工大教育賞の授与式が行われました。



西森秀稔教授 挨拶



篠崎和夫教授 挨拶

この賞は教員の教育方法及び教育技術の向上を図り、より優れた教育を推進することを目的として制定されたもので、今回で13回目となります。

授与式では、最優秀賞に選ばれた西森秀稔教授、篠崎和夫教授ほか6名の出席者に対して三島学長から賞状及び報奨金（目録）が授与されました。

「平成26年度東工大教育賞」受賞者一覧

平成26年度における授業科目の教育方法等が優れているとして次の10名の教員が選ばれました。

（所属順・敬称略）

（所属・役職は受賞当時）

最優秀賞

受賞者（所属）	対象業績
西森秀稔教授 （大学院理工学研究科 物性物理学専攻）	授業参観等による教育の質の向上のためのシステムの開発と実践
篠崎和夫教授 （大学院理工学研究科 材料工学専攻）	教員・学務との密接な協力による学生と教員のための教育システム作り

優秀賞

受賞者（所属）	対象業績
内藤聡教授 （大学院理工学研究科 数学専攻）	学部専門課程における講義と演習授業の有機的な連携
須佐匡裕教授 （大学院理工学研究科 材料工学専攻）	グローバル理工人育成コースによる学部学生への国際化教育の推進
セリーヌ・ムージュノ准教授 （大学院理工学研究科 機械物理工学専攻）	問題解決型授業による創造的指導力を育てるデザイン教育
齊藤滋規准教授 （大学院理工学研究科 機械宇宙システム専攻）	異分野混成チームでの人間中心設計を実践する新講義の構築
山田明教授 （大学院理工学研究科 電子物理工学専攻）	東工大における創造性育成科目の推進および創造性育成科目
鹿島亮准教授 （大学院情報理工学研究科 数理・計算科学専攻）	コンピュータサイエンス入門の教材開発、授業実践、および科目運営
真野洋介准教授 （大学院社会理工学研究科 社会工学専攻）	地域創生イニシアチブの形成に貢献する震災復興デザイン教育
伊藤亜紗准教授 （リベラルアーツセンター）	「学生プロジェクト」等を通じたリベラルアーツ教育の推進と研究



集合写真

(全学サイト東工大ニュース投稿者・掲載日：総務部人事課労務室 2016年4月26日)

平成 27 年度「東工大の星」支援 STAR 採択者決定

平成 27 年度「東工大の星」支援（英語名称：Support for Tokyotech Advanced Researchers 【STAR】）の採択者 2 名が決定しました。

「東工大の星」支援【STAR】とは、東工大基金を活用し、将来、国家プロジェクトのテーマとなりうる研究を推進している若手研究者や、基礎的・基盤的領域で顕著な業績をあげている若手研究者に対し、大型研究費の支援を行うものです。次世代を担う、本学の輝く「星」を支援しています。

「東工大の星」支援【STAR】の概要

目的

東工大基金を活用し、本学における優秀な若手研究者への大型支援を実施することにより、本学の中期目標である基礎的・基盤的領域の多様で独創的な研究成果に基づいた新しい価値の創造を促進し、もって、学長の方針に基づく本学の研究力強化に資することを目的とする。

支援対象者

公募によらず、様々な業績を勘案し、学長及び研究戦略室長の協議により選考する。

観点

将来、国家プロジェクトのテーマとなりうる研究を推進している若手研究者
基礎的・基盤的領域で顕著な業績をあげている若手研究者

役職等

若手研究者は准教授以下（原則 40 歳以下）とする。



平成 27 年度受賞者

(前列左から) 塚原剛彦准教授、中戸川仁准教授 (後列左から) 安藤真理事・副学長、三島良直学長

第 3 回目の今回は、2 名の「星」が学長及び研究戦略室長の協議により選考されました。

所属部局 (平成 27 年度当時)	専攻	職名	氏名
大学院生命理工学研究科	生体システム専攻	准教授	中戸川 仁
原子炉工学研究所		准教授	塚原 剛彦



授与式の様子



学長との懇談の様子

(全学サイト東工大ニュース投稿者・掲載日：研究推進部研究企画課 2016年4月18日)

工大祭が「学園祭グランプリ 2015」の MVP を受賞

工大祭 2015 がレッツエンジョイ東京主催の「学園祭グランプリ 2015」において、MVP 賞のほか地域活性化賞、SNS 実行賞の 3 つの企画賞を受賞しました。

学園祭グランプリは、株式会社ぐるなびと東京地下鉄株式会社が共同運営する「レッツエンジョイ東京」の主催する首都圏の大学学園祭のナンバーワンを決めるコンテストです。今年度は 100 校以上のエントリーがありました。



正門横に設置された工大祭 2015 の看板

この他、学園祭当日の装飾を評価されるデザイン賞で 2 位を受賞。また、アルコールの一气飲みを禁止するポスターについて評価される協賛賞「NO IKKI! 賞 2015」、ポスター標語デザインコンテストでも入賞しました。工大祭ならではの多様性に富んだ学生企画の数々や、研究室公開企画についても高い評価をいただくことができました。

MVP 賞はこれらのことを総合して、多くの面で高いクオリティであったことが評価されての受賞となりました。

受賞した各賞についてのコメント

●地域活性化賞

この賞は、学園祭において地域と連携している優れた取り組みに送られる賞です。工大祭 2015 では大岡山北商店街と共同で行ったスタンプラリーや、本館前ウッドデッキを使った地域の方によるフリーマーケットを開催しました。

特に、スタンプラリーについてはより一層力を入れた分だけ、商店街との情報共有などについて難しさがありました。当日は参加賞のテックちゃんグッズが子供たちに好評だったこともあり、昨年度より多くの方に参加していただくことができました。

●SNS 実行賞

この賞は学園祭を紹介する動画を作成し、SNS での反応数（Twitter でのリツイートや Facebook のいいね等）を競う賞です。

委員会外の東工大の学生から大きなサポートがあり、2 位以下に大きな差をつけての受賞となりました。このことは、工大祭が東工大に関わるたくさんの方々のご協力のもと開催できていること、そして多くの方に応援していただけていることを改めて実感させてくれました。

また、当委員会で作成した動画は大変好評をいただき、動画自体の質を競う PR 動画賞でも 2 位に入賞することができました。

●MVP 賞

学園祭グランプリ MVP を受賞し、1 年間頑張ってくれた委員の皆とこれまで工大祭の成功に向けてご協力してくださった多くの方の努力が報われたようで大変うれしく思います。

工大祭はまた今年も行われます。これを機に工大祭により多くの方が参加し、足を運んでいただければこれほど喜ばしいことはございません。

最後に、工大祭の開催に際し、多くのご助力を頂いた東工大の職員の皆様、お忙しい中工大祭に参加くださり大いに盛り上げていただいた研究室の皆様、参加団体の皆様、地域の皆様、ご協賛くださいました企業の皆様、そして工大祭に足を運んでくださいました来場者の皆様に工大祭実行委員会を代表して心より御礼申し上げます。



工大祭当日の様子

(全学サイト東工大ニュース投稿者・掲載日：工大祭実行委員会前委員長 伊藤大造 2016年4月12日)

東工大フットサル部 FFC カレッジフットサルリーグ 1 部昇格

フットサル部 Tokyo Tech.が、2015 年度の F-NET 主催 FFC カレッジフットサルリーグの 1 部昇格戦で勝利し、1 部リーグへの昇格を決めました。この結果により、来季から 1 部リーグで戦うことになります。



1 部昇格を決めたフットサル部のメンバー

FFC カレッジフットサルリーグは、関東地域で行われている日本最大の学生フットサルリーグで、現在 40 大学以上 55 チームが参加しています。1 部と 2 部に分かれたリーグは、1 部 12 チームと 2 部 4 グループ各およそ 10 チームから構成されます。2015 年度、2 部 D グループに所属した Tokyo Tech.は成績 8 勝 1 分 1 敗でグループ優勝を果たしました。そして、2 月 24 日に行われた 2 部の各グループ優勝チームが集まる 1 部昇格戦に進出しました。そこで 2 部 C グループ優勝の東京都市大学に 5-2 で勝利したことで、史上初となる 1 部昇格を決めました。

1 年間キャプテンを務めた六岡諒介さん（工学部金属工学科 3 年生）のコメント

一年間この昇格を目標にして活動してきました。苦しい時期もありましたが、皆の努力が実を結び、達成できて本当に嬉しいです。これから 1 部リーグで良い成績を残せるよう頑張っていきます。

(全学サイト東工大ニュース投稿者・掲載日：工学部社会工学科 高橋健. 2016 年 3 月 11 日)

平成 27 年度手島精一記念研究賞授与式

研究推進部研究企画課

2月23日に東工大蔵前会館のくらまえホールにおいて、手島精一記念研究賞の授与式が行われました。授与式には、本学学内関係者ほか、蔵前工業会理事長、元手島工業教育資金団役員が臨席しました。



記念写真

手島精一記念研究賞は、理工系大学における研究を奨励するために設けたものであり、特に優れた研究業績をあげた本学関係者に対して、賞状並びに副賞の授与を行っています。この賞は、東京工業大学の前身である東京工業学校及び東京高等工業学校の校長であった手島精一先生の功績を記念するため創設された財団法人手島工業教育資金団の事業の一つとして行われてきました。2009年4月に同財団の解散に伴い、本学に事業が継承され今日に至っています。

今年度は、24件・計55名の受賞者に対し、学長から賞状と副賞が授与されました。授与式に引き続いて、ロイヤルブルーホールにおいて、受賞者を囲んで祝賀会が行われ、出席者全員和やかな雰囲気の中で閉会しました。

(所属・役職は受賞当時)

平成 27 年度受賞者

研究論文賞 (2 件)

- 持田啓佑 (大学院生命理工学研究科・生体システム専攻・大学院生)
- 及川優 (フロンティア研究機構・博士研究員)
- 木村弥生 (横浜市立大学・先端医科学研究センター・准教授)

- 桐浴裕巳（大学院生命理工学研究科・生体システム専攻・研究補佐員）
- 平野久（横浜市立大学・先端医科学研究センター・特任教授）
- 大隅良典（フロンティア研究機構・特任教授）
- 中戸川仁（大学院生命理工学研究科・生体システム専攻・准教授）

“Receptor-mediated selective autophagy degrades the endoplasmic reticulum and the nucleus”

- 早川哲（大学院生命理工学研究科・生体システム専攻・博士研究員）
- 水野・山崎英美（大学院生命理工学研究科・生体システム専攻・博士研究員）
- 川口紘平（大学院生命理工学研究科・生体システム専攻・大学院生）
- 佐伯泰（東京都医学総合研究所・生体分子先端研究分野・副参事研究員）
- 田中啓二（東京都医学総合研究所・所長）
- 駒田雅之（大学院生命理工学研究科・生体システム専攻・教授） 外 14 名

“Mutations in the deubiquitinase gene USP8 cause Cushing's disease”

博士論文賞（14名）

数学関係部門

- 田神慶士（大学院情報理工学研究科・数理・計算科学専攻・日本学術振興会・特別研究員 PD）

“Khovanov type link invariant and homotopy quantum field theory”

物理学関係部門

- 中村一平（理化学研究所・創発物性科学研究センター 統合物性科学プログラム量子多体ダイナミクス研究ユニット・特別研究員）

“Spectroscopy of a single rare-earth ion in a crystal at cryogenic temperature”

- 野辺拓也（東京大学 ICEPP・学振特別研究員 PD）

“Search for scalar top quarks and higgsino-like neutralinos in pp collisions at a center-of-mass energy of 8 TeV with the ATLAS detector”

地球科学関係部門

- 今田沙織（高輝度光科学研究センター・研究員）

“Sound velocity and density of liquid Fe-Ni-S alloy at high pressure”

- 國友正信（名古屋大学大学院・理学研究科・研究員）

“Evolution of Pre-Main Sequence Stars and Its Environmental Impact on Their Circumstellar Disks”

材料工学関係部門

- 角屋智史（兵庫県立大学・物質理学研究科・助教）

“Chemical Doping and Charge Injection in Organic Field-Effect Transistors”

- 篠原百合（精密工学研究所・助教）

「Ti-4Au-5Cr-8Zr 超弾性合金の開発とその変態挙動に関する研究」

電気・電子工学関係部門

- 小野峻佑（像情報工学研究所・助教）

“A Study of Priors and Algorithms for Signal Recovery by Convex Optimization Techniques”

- 林寧生（精密工学研究所・博士研究員）

“A Study on Brillouin Scattering Properties in Plastic Optical Fibers for Sensing Applications”

情報学関係部門

- Amer Abdelhalim（Argonne National Laboratory・Postdoctoral Appointee）

“Parallelism, Data Movement, and Synchronization in Threading Models on Massively Parallel Systems”

- 紋野雄介（大学院理工学研究科・機械制御システム専攻・産学官連携研究員）

“A Practical One-Shot Multispectral Imaging System Using a Single Image Sensor”

建設関係部門

- 毎田悠承（千葉大学大学院・工学研究科・建築・都市科学専攻建築学コース・助教）

「鉄筋コンクリート骨組における座屈拘束筋違の接合部挙動および制振効果に関する研究」

エネルギー関係部門

- 白石貴久（東北大学・産学官連携研究員）

「水熱合成法による $(K_xNa_{1-x})NbO_3$ 膜の低温合成とその圧電特性評価に関する研究」

その他境界領域的な関係部門

- 鈴木脩司（株式会社富士通研究所・研究員）

“Faster Protein Sequence Homology Searches for Large-scale Metagenomic Data”

留学生研究賞（4名）

- Siriburanon Teerachot（大学院理工学研究科・電子物理工学専攻）

“Low-Power Low-Jitter Frequency Synthesizers for High-speed Wireless communications”

- Zamengo Massimiliano（大学院理工学研究科・有機・高分子物質専攻・助教）

“Development of heat-transfer enhanced composite for chemical heat storage/pump and numerical analysis of practical system for waste heat recovery in a steel making process”

- Karma Wangchuk（大学院理工学研究科・国際開発工学専攻）

“Cooperative Relaying Channel and Outage Performance in Narrowband Wireless Body Area Network”

- Wu Rui（大学院理工学研究科・電子物理工学専攻）

“Reliability-Enhanced Low-Power High-Data-Rate 60-GHz Transceivers in CMOS Technologies”

●発明賞（2件）

- 細田秀樹（精密工学研究所・教授）

- 稲邑朋也（精密工学研究所・准教授）

- 堤聡（JFE スチール株式会社・研究員）

- 金高弘恭（東北大学・准教授）

「Pt系形状記憶合金」

- 林崎規託（原子炉工学研究所・准教授）
- 服部俊幸（名誉教授）
- 石橋拓弥（高エネルギー加速器研究機構・助教）
- 山内英明（タイム株式会社・代表取締役）
「四重極型加速器および四重極型加速器の製造方法」

中村健二郎賞（1件）

- 顧曉冬（精密工学研究所・特別研究員）
「超高解像光ビーム掃引とその波長選択光スイッチへの応用」

藤野志郎賞（1件）

- 北野政明（元素戦略研究センター・准教授）
「 $12\text{CaO} \cdot 7\text{Al}_2\text{O}_3$ エレクトライド担持 Ru 触媒によるアンモニア合成」

（全学サイト東工大ニュース掲載日：2016年3月10日）

開催報告“LAUNCH UP!”

博物館 特任講師 遠藤康一
特任講師 阿児雄之

2015年12月21日、22日の2日間にわたり、去る10月にリニューアルオープンした百年記念館1階のラーニング&インフォメーション・commonsにて、このスペースの活用促進のPRを兼ねた、学びの空間の可能性と新しい学びのカタチを模索するイベント“LAUNCH UP!”を開催しました。



盛況な会場

期間中は、会場内にて、実装された様々な機器や設備の紹介、それに関連する教育・ICTソリューションの企業展示・デモンストレーション、また学内のラーニングスペースの紹介展示、各種のイベントやセミナーを設けるなど、「学修や活動をサポートするインフラとしての設備」と「学修空間の活用における多様性」という2つの視点から多種の実践的な試みを行いました。2日間それも午後のみという限られた時間ではありましたが、約300人の来場者がこれらの企画に参加し、イベントの内容やこのスペースの活用方法の可能性について、数多くの貴重なご意見を残してくださいました。

この2日間の経験を経て、百年記念館1階は、東工大の教育改革のコンセプト「自ら進んで学び、鍛錬する“志”を育てる」ための空間として、機能整備の段階から、その積極的活用により充実した学びを育む段階へとLAUNCHを果たしたことになります。

今後は、ここが学生・教職員他の様々な活動を受け止め、キャンパスの中でも常に活発で賑やかな場所となるよう、そのための活用支援等も行っていく予定ですので、まずはお気軽にお立ち寄りください。そしてご利用にあたって様々なご意見をお寄せいただくと共に、大学全体としてこの場所をさらに育てていっていただきたいと思っております。

“LAUNCH UP! Learning & Information Commons“

日程：2015年12月21日（月）～22日（火）

会場：東京工業大学博物館・百年記念館1階

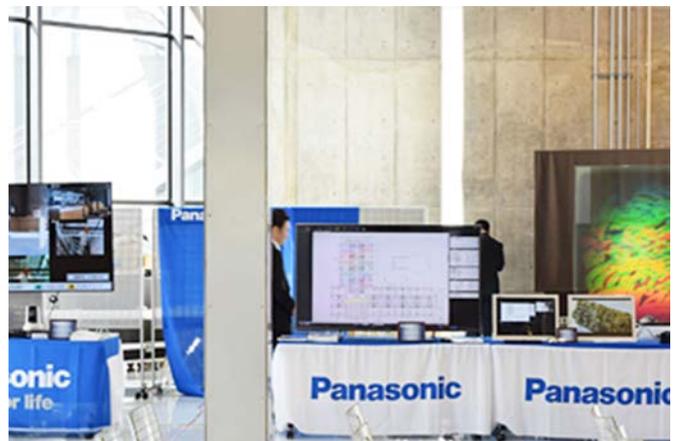
主催：東京工業大学博物館／広報センター

協賛：パナソニックシステムネットワークス株式会社／パナソニック株式会社／株式会社ウチダシステムズ／株式会社内田洋行／株式会社デジタル・アド・サービス

協力：東京工業大学社会理工学研究科／教育革新センター

【展示内容】

- ①協賛企業展示： 普段の学修から授業、研究まで大学における様々な教育・学修シーンとの関連が深いICTソリューション技術展示（パナソニックシステムネットワークス株式会社）、グループディスカッションやワークショップなど、授業内外のアクティブラーニングをサポートする支援ツールの紹介展示とデモンストレーション（株式会社ウチダシステムズ）。
- ②東工大のラーニングスペース紹介：学内にあって学生や教職員が自由に利用できるラーニングスペースの存在はあまり共有されていません。現在進みつつある講義室を中心とした学修環境整備の取り組みとともに、学生同士のコミュニケーションや自修、セミナー、サークル活動など様々な活用可能なスペース情報をパネルにて紹介しました。
- ③ネーミングコンテスト「百年1階愛称募集！」： 学生・教職員の学びと活動のための開かれたスペースであり、学内外の方々への情報発信拠点でもある百年記念館1階の愛称募集を行いました。会場内の電子黒板と博物館 Web サイトで応募を呼びかけ、審査の結果「T-POT」に決定しました。「Tokyo tech, People, Opportunity, Technology」という意味が込められており、また、人が集まりお茶を飲みながら議論を楽しむ



パナソニックシステムネットワークス株式会社による展示



株式会社ウチダシステムズによる展示

あたたかい場所（器=POT）のイメージと呼びやすさが高い評価を得ました。

http://www.cent.titech.ac.jp/SpecialExhibitions_event/PastExhibition_event/naming.html



東工大のラーニングスペース紹介



ネーミングコンテスト「百年1階愛称募集！」

【イベント・セミナー】

ラーニングコモンズとなった百年記念館1階のスペースは、これまでも談話や休憩、食事のためのラウンジとして、博物館や他部局が主催する展示やイベントスペースとして様々に利用されてきました。ここに、学修や情報発信としての積極的な機能が備わったこと、利用主体としての学生の位置付けが明確になったことと関連して、空間の新たな活用方法と連動した学びのあり方の開発と実践を試みる、学修の“実験場”としての役割が加わりました。

この度の“LAUNCH UP!”では、この実験の第一弾として、様々な空間活用法と学びの実践を取り入れた催しを行いましたので、以下にその概要を記載します。

①オープニングイベント： 大谷清博物館長（理事・副学長、当時）と丸山俊夫理事・副学長から、生まれ変わった百年記念館1階スペースが大学での新たな学びの場として活用されることを期待する旨の挨拶がありました。あわせて、教育改革によって多様化する学びに対応できる、新たに実装された設備機能が紹介されました。

②公開授業「対話を育む実践ファシリテーション論」第10回 「教える」より「学び合う」場を創ろう！大教室でのアクティブラーニング： 中野民夫教授（リベラルアーツ研究教育院 2016年4月～）が開講している、教員の話聞くだけではなく、学生同士が主体的に話し合っって学び合う授業を公開しました。見学ではなく、来場の方々も授業に参加し、学生含め約100人が議論を交わす熱気に満ちた講義がおこなわれました。このような大人数でのグループワークを実施できる講義室は学内に少なく、百年記念館1階は新しい学びに対応した“教室”としての活用も望まれています。



大谷清博物館長（理事・副学長、当時）



丸山俊夫 理事・副学長



公開授業

③Art Extension コンサート： 学生企画のひとつとして、開放的な空間を活かした室内楽コンサートが2回開催されました。1日目は夕方開催のため授業を終えた学生達が足を運び、2日目昼は食事を取りながら教職員や親子連れが演奏を楽しみました。百年記念館全体に響き渡るヴァイオリンやフルートの音色に耳を傾けたひとときでした。



弦楽四重奏



フルート、弦楽三重奏

④ワークショップ「キャンパスツアーをデザインしよう」： 東工大へ見学に来る高校生を日々案内している学生キャンパスガイドが、キャンパスツアーをデザインするワークショップを企画。参加者は、大岡山キャンパスの地図をベースに、キャンパスガイドから学内の魅力的なスポットの説明を受けつつ、独自のキャンパスツアーをデザインに取り組みました。

⑤トークセミナー1 MOOC 紹介イベント「MOOCをもっと知りたい件」： インターネット上で大学などの講義を受けることができる MOOC（ムーク）。東工大でも2つの講義を提供しており、東工大オンライン教育開発室の森秀樹准教授による本セミナーでは、コンテンツの制作に関わった TA（ティーチング アシスタント）学生よりオンライン講義の説明やコンテンツ制作過程が紹介されると共に、将来の学びの姿を模索するレゴを用いたワークショップが行われました。MOOCのコンテンツ制作は、学生が動画撮影・編集をおこなっているのが特徴であり、制作に携わった学生からの苦労話や体験ブースによる説明など、オンラインでは知ることができない興味深い案内がありました。



ワークショップ「キャンパスツアーをデザインしよう」

⑥トークセミナー2 「アクティブラーニングと空間について」「博物館のアクティブラーニングとは」「アクティブラーニングと ICT 環境整備」： 数多くの大学など教育機関でアクティブラーニング環境をデザイン・構築されてきた3人に、具体的活用事例を通じ、百年記念館1階スペースの可能性についてお話いただきました。吹き抜けがあり天井の高い開放的空間であること、大学の成果が集約している博物館の中にあること、学修の場であるとともに情報発信の場であることなど、1階スペースは他のアクティブラーニングスペースに比べて大きな魅力を有していることが語られました。



トークセミナー1



トークセミナー2

【プログラム外企画】

●BONENKAI 12月21日(月)19:45~21:45 : 国際開発工学専攻の学生を中心に、様々な学部や専攻、多様な国籍の学生間交流の活性化を目的に、また百年記念館1階の今までにない活用の試みとして、Electronic Dance Music(EDM)音楽イベントが開催されました。準備・運営は全て学生がおこない、100人以上が参加した大イベントとなりました。学術的な交流に加え、授業終了後の新たな形の学生交流の場としても活用出来る可能性がみられました。

【寄せられた声（アンケート結果より抜粋）】

1. イベント全般についての満足度
非常に満足～満足 89% / やや不満～不満 7% / 回答なし 3%
2. スペースの活用アイデアについてのコメント

- ・学生と外部のつながりの場として最適
 - ・教員、学生、OBの取り組みを発表するなどの交流の場
 - ・壁面のホワイトボード全体を使ったトークセッション、コンサートや交流会など定期的な学生企画イベントの開催
 - ・体験型イベントや学生によるレクチャーイベントの開催
 - ・館内風景を学内にリアルタイム配信
3. 展示やイベントについての感想
- ・学内ラーニングスペース紹介を見て、多くの講義室がアクティブラーニングに対応した改修を行っていることに驚いた
 - ・愛着のある身近なスペースの愛称をつけられるネーミングコンテストの試みが良い
 - ・トークセミナー2について、アクティブラーニングに関わる様々な分野の専門家の話が聴けて良かった
 - ・学生企画イベントが良かった
 - ・音楽イベントはこのスペースを盛り上げるのにふさわしいと思う
 - ・音が響きすぎるため、スピーカー設備は改良の余地があるのではないか
 - ・公開授業について、社会では対話やコミュニケーション発表、意味出しを日常的に行うため、学生時代にこのような主体性が磨かれる環境があることはとても良いことだと思う
 - ・建物の形に興味があり来訪したが、中に入り、イベントを楽しむことができて良かった

(全学サイト東工大ニュースにも一部編集の上掲載：2016年3月4日)

2015年度後期の附属図書館企画展示 開催報告

研究推進部 情報図書館課

東工大附属図書館では、所蔵資料の利用促進のため、1年を通じて企画展示を行っています。テーマは2〜3ヶ月毎に変更します。基本的に図書館サポーター*の学生が本を選び、ポスターや配布用のリストとコメントを書いたポップの作成を行っています。2015年度後期に実施した展示を紹介します。

※図書館サポーター:カウンター対応の補助、書架の整理、資料の整備、広報活動、展示等の企画など図書館内でさまざまな仕事を補助してくれている学生たちです。

Fly across a border! 語学・留学の本 展示期間：10月7日～11月30日

本学の留学生センター（2016年3月廃止）の先生の協力のもと、「語学・留学に役立つ本」というテーマで選んだ本を大岡山本館とすずかけ台分館で展示しました。

期間中は、展示本だけでなく、大岡山本館地下2階にある「語学・留学用資料」コーナー、すずかけ台分館2階にある「語学・留学用資料」および



「留学生用資料」コーナーに置いてある図書も多く借りられました。皆さんにこれらのコーナーを知っていただく良い機会にもなり、附属図書館としてもうれしいかぎりでした。

紹介されている本とその推薦文は、以下のリストをご覧ください。

Fly across a border! | 推薦本リスト

<http://www.libra.titech.ac.jp/news/pdf/201510recolist.pdf>

図書館サポーター推薦：はたらくミライを考えよう！

展示期間：1月4日～2月29日

仕事や就職をテーマに選んだ本を展示しました。

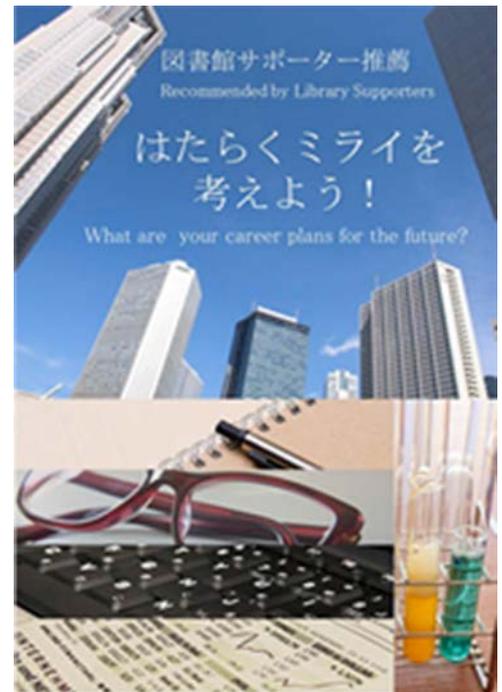
今回の展示本の半分以上が、社会科学分野のものでした。いつも図書館で多く借りられる理工学分野の本とは系統が異なりましたが、期末試験の時期にも関わらず、展示された本はすぐに借りられ、返却されるとすぐに、他の人に借りられていました。また、学生だけでなく、教職員も展示場所で足を止めていた姿が多く見られました。配布用の図書リストを持ち帰る方も多かったです。

なお、本の展示と同時に、図書館職員からは「会社四季報」や「週刊エコノミスト」を収録しているデータベースである、ジャパンナレッジ Lib (JapanKnowledge Lib) をおすすめしました。また、大岡山とすずかけ台のキャンパスにある就職資料室についても案内しました。

紹介されている本とその推薦文は、以下のリストをご覧ください。

はたらくミライを考えよう！ | 推薦本リスト

<http://www.libra.titech.ac.jp/news/pdf/201601recolist.pdf>



(全学サイト東工大ニュース掲載日：2016年4月28日)

東工大クロニクル No.511

2016年5月31日 東京工業大学広報センター発行

◎東工大クロニクル企画チーム

編集長 千葉 明 (工学院 教授)

陣内 修 (理学院 准教授)

住所：〒152-8550 東京都目黒区大岡山2-12-1-E3-13

TEL：03-5734-2976 FAX：03-5734-3661

E-mail：publication@jim.titech.ac.jp

最新号・過去号：

<http://www.titech.ac.jp/about/overview/publications.html#h3-7>

東工大クロニクル執筆要項：

<http://www.titech.ac.jp/staff/relations/chronicle/chronicle.html>

ISSN 1349-9300